

白田町誌 近世編 目次

口 絵

発刊のことば

発刊にあたって

例 言

佐久市長

三浦 大助

白田町誌編纂委員長

尾崎 行也

第一章 所領の変遷と支配の特色

第一節 仙石領から徳川忠長領へ

一 仙石領政と佐久郡逃散

依田氏の転出

仙石秀久の入封

百姓の逃散

忠政の還任政策

丸山から山宮へ

山宮氏と新海社

肝煎納めの成立

二 寛永の総検地

徳川忠長の入封

松平忠憲の入封

忠長領の検地

新海社領の検地

第二節 幕府領と甲府徳川領

一 傘連判状による百姓の訴願

幕府領の新設

傘連判状の訴え

組支配の実態

村請制の確立

幕府領期の神領

二 甲府徳川領と館林徳川領

甲府徳川領

館林徳川領

知行地と代官所

甲府領新田検地

三 幕府領の七左衛門訴人検地

四四

	七左衛門の密告 訴人領地の実態	新海領の再検地	板倉領の清川村
第三節	中後期幕府領と諸領	五四
一	中期幕府領の代官支配	五四
	中期幕府領支配 代官変遷と陣屋	五八
二	旗本知行所と大名預り所	五七
	高野町知行所 松本藩預かり所	五九
三	佐久三藩と後期幕府領	六一
	佐久の三大名領 後期幕府領支配	六一
第二章	田野口領政	六三
第一節	田野口藩主と家臣	六五
一	大給松平氏真次系	六五
	田野口藩 大給松平氏 大給松平氏真次系	歴代の藩主 大番頭 大給城
二	領地の支配	七二
	参勤交代と歴代藩主 江戸藩邸 奥殿陣屋	七二
三	家臣たち	七七
	分限帳 格式と俸祿 藩の機構 家臣団	コラム―歴代藩主の印判
第二節	佐久郡内領地の成立	八三
一	大給松平氏(真次系)の所領	八三
	旗本から大名へ 三河の所領 佐久の所領	八三
二	田野口陣屋の設置	八七
	三塚陣屋の設置 田野口藩への陣屋移転 領内区分	八七

第三節 藩政の推移 九二

一 宝永元年領内法度書 九二

入封と法度 法度書の内容 衣食住の制限

二 文化と文政の触書 九四

文化三年の儉約七カ条 文政一〇年七〇カ条

三 法度の徹底 九六

請書の提出 法度の実施 法度違反への対応

四 藩政の動向 一〇〇

藩政をめぐる問題点 享保期の財政対策 江戸中期の動向 藩財政の無尺利用 天明から寛政へ

文化・文政の動き

第四節 陣屋による支配 一〇九

一 代官による領内統治 一〇九

田野口陣屋の役人構成 陣屋における代官の役割 江戸藩邸との連絡 陣屋代官と領内の意向 廻米金納の中止問題

二 抱え入れ奉公人 一一三

陣屋採用の江戸奉公人 天明三年奥抱の実態 天保四年の奉公人抱帳 天保八年の抱え奉公人帳

三 割元と郷宿 一一六

割元の役割 郷宿の活動

第五節 幕末期の動向 一一八

一 開国への対応 一一八

乗謨の藩主就任 歩人組の編成 非常足輕組の結成と活動

二 儉約令と藩財政 一二一

儉約令と借米 安政元年の献金・献穀 藩用金調達

三 五稜郭と幕末動乱 一二四

藩主の昇進 在所替えと五稜郭建設 藩主乗謨の若年寄就任 天狗党襲来と軍制改革 コラム―函館五稜郭
陸軍総裁への就任 龍岡藩の成立と廃止 コラム―大給恒の書

第三章 村人の生活 一三三

第一節 村のすがた 一三五

一 村政 一三五

近世の村 本村と枝郷

二 村役人 一三六

名主・組頭 百姓代 白田村 勝間村 中小田切村 下小田切村 湯原村 湯原新田村 下越村

上中込村 清川村 三分村 田野口村 入沢村・平林村 村役人の仕事 文書の引き継ぎ 村定

会所印

三 村の財政 一四九

村入用帳 村財政への規制 清川村の「惣村中使錢帳」 入沢村の小入用

上小田切村新田の小入用

第二節 身分と階層 一五八

一 本百姓と抱 一五八

本百姓 抱・門屋 譜代 抱の動向

二 村に住むさまざまな人々 一六一

職人・宗教者 浪人

第三節 被差別部落 一六三

一 被差別部落の役割 一六三

身分による差別	牢屋の設置	牢屋の構造	牢屋の建て替え	牢守の役割	牢番の過怠一件	他の村のようす
二	被差別部落の生活	菅笠・草履	竹皮細工	一把稲	他村への移住	一六六

三	差別の強化と抵抗	元文の身分差別令	居住地の規制	上中込村相撲一件	差別の強化	差別に対して
一六八						

第四節	家と生活	一七四
-----	------	-----

一	衣食住の変化	一七四
---	--------	-----

生活の規制 盗難品からみた衣服 髪結い 食生活 承応年間の白田村の家 家の売買 茅の売買

二	人口・戸数の変化	一七八
---	----------	-----

白田地域の人口・戸数 入沢村の人口変化 家族構成 婚姻圏 縁組みの手続き 離縁 相続

三	家と同族団	一八三
---	-------	-----

同族団の定書 家存続にむけて 名字をめぐる争い 墓地をめぐる争い

四	村人の一年	一八六
---	-------	-----

遊び日の増加 白田村の神社祭礼 稲荷社の祭り芝居 祭礼の定書 江戸で購入した芝居装束

かつらの増加 祭礼と村

第四章	村人の生業	一九五
-----	-------	-----

第一節	農業の実際	一九七
-----	-------	-----

一	農作物の種類	一九七
---	--------	-----

宝永期の農作物 中小田切村の作物

二	稲作	一九八
---	----	-----

品種 播種量と収量

三	田の農事暦	二〇〇
	苗代	田方植付	立毛
四	畑作	二〇一
	畑作物	肥料	焼畑
五	馬の飼育	二〇二
	馬毛付帳		
六	薬用人参栽培	二〇三
	江戸時代の薬	佐久地方の人参	田野口領内の人参栽培
七	佐久鯉	二〇四
	鯉の養殖		
第二節	水となりわい	二〇七
一	用水堰の開削	二〇七
	用水堰の開削	白田村の用水	田野口用水
			新堰の開設と補修
二	水をめぐる争い	二〇九
	小山沢堰をめぐる争い	弘化三年新堰普請出入一件	高野町村新堰普請出入
	安政七年用水べ切一件		
三	水車稼ぎ	二一二
	粉挽勘定書	挽物大福帳	中小田切村にあった水車
			車屋普請
			盗まれた穀物
第三節	新田村の成立	二一七
一	十二新田	二一七
	十二新田	開発者佐藤太郎左衛門	
二	中小田切新田村	二一九

第四節 山となりわい

一 山のめぐみ

林野の利用

二 御林

田野口藩の御林 湯原御林

三 百姓持林と入会山

百姓持林 上村山 田野口山

四 山論

元禄の田野口山論 正徳の山論 国境をめぐる争い

五 山がもたらす恵み

丸山の松茸 番人と盗難

第五節 田野口砥石の発掘と販売

一 田野口砥石の採掘

砥石の発見 権利をめぐる争い 個人による採掘願い 藩による採掘開始

採掘にいたるまで 鉱山経営とその顛末

二 砥石の売り捌き

砥石の販売

第六節 酒の消費と酒造業

一 近世における飲酒の機会

与平次家の酒消費 村の酒宴

二 酒の生産

村の酒屋 明細帳に記された酒屋 酒造株 白田村の酒造業 酒屋の利益 酒の宣伝
酒の販路 原料米の調達

第七節 商人 二四二

一 市と商人 二四二

商人 盗難届にみる商品 入沢村(三条)の呉服太物商 買物覚 田野口村中條家の大福帳 大榭屋

江戸稼ぎ

第八節 諸職人 二四八

一 主な職人 二四八

白田地域の職人 大工 陣屋の建設 盗難にあつた紺屋 紺屋の開業 呉服商人 瓦商売 鍛冶

第九節 村の金融 二五四

一 質屋稼ぎ 二五四

質株 質屋のきめごと 質屋の営業

二 無尽 二五六

無尽の仕組み

第五章 交通の諸相 二五七

第一節 村の道と峠道 二五九

一 村の道 二五九

絵図にみる村の道 五人組帳にみる村の道 領内法度にみる村の道と通行 村の道の改変と公道意識

道普請と私道

二 山道と峠道 二六四

入会山への道 山道の普請 負担としての山道普請 田口峠とその周辺 村明細帳にみる上州道

第二節 街道と橋

諸役免除の歎願にみる上州道 上州道の普請

一 中山道の助郷勤め

白田地域の助郷 清川村の助郷減免運動 寛保・延享期の助郷免除運動 助郷勤めの具体 姫君の通行

二 佐久甲州街道と中馬・手馬

佐久甲州街道の成立と中馬 問屋が定めた附通荷物の賃銭 佐久郡の馬士が牽いた手馬の数

三 街道の橋

中山道千曲川往還橋組合 勿橋用材の川下げ出入り 野沢原橋組合

四 村の橋

白田橋の利用 白田橋の普請 片貝川に架かる橋 上中込村の離山橋 離山橋の普請

第三節 人の動き

一 田口峠の通行

砥沢関所の通行 田口峠茶屋営業願い 茶屋主人殺害一件 事件解決と峠の往来

二 人の動きの諸相

運輸を担った馬士 馬背輸送の実際 村に立ち入った無宿者 追分宿飯売女きく一件

三 旅の諸相

旅の規定 旅の諸相

第四節 物の動き

一 米の輸送

江戸回米 米の輸送経路 余剰米の運搬 年貢米の梱包と運搬

二 物資輸送の諸相

薪 材木 蚕種 馬の売買 馬士と馬 捨て馬 馬士と甲州脇往還の間屋・中馬 千曲川東通りと西通りの争い

二七二

二七二

二七九

二八一

二八五

二九四

二九四

二九九

三〇四

三〇七

三〇七

三一〇

第六章 上信交易のあゆみ

第一節 上信交易の始まり

一 上信を結ぶ峠道

上信を結ぶ峠道 上信交易の特質

二 佐久地域の動向

年貢の金納 野沢市場の誕生 白田村米市場の設設計画 白田村米市場の誕生と挫折

三 西上州の動向

「上野砥」の採掘と鉾山労働者 高崎町の信州米問屋 間部詮房の時代

第二節 天明期の上信交易

一 絹運上の取立と浅間山の爆発

養蚕業の量的・質的拡大 絹運上反対一揆 天明の浅間焼け 「梵天騒動」(国越騒動)

二 新しい米市場の誕生

天明五年(一七八五)の論争 天明七年(一七八七)の論争 寛政八年(一七九六)の論争 白井米市場の動向

第三節 凶作下の上信交易

一 文政八年の凶作

文政の凶作 下仁田打ちこわし 米移出路の確保

二 天保の凶作と米の移出

凶作への対応 米移出日の設定

第四節 幕末・維新时期の上信交易

一 幕末期の動向

二	明治維新期の上信交易	三七一
	西上州世直し一揆 内山峠越え 「教談書」の交付 内山村相立の会議 議定書の交換	
	「示談」の政策的昇華 「上州出米世話人」の任命	
三	上信交易の終焉	三八二
	佐久と下仁田両問屋の相談	
第七章 災害と騒動		
一	第一節 前期・中期の災害	三八三
	一年貢高の変動	三八五
	災害と年貢高の変動 田野口領の年貢高	
二	不作と飢饉	三八八
	寛永期の飢饉 延宝期の飢饉 元禄期の飢饉 享保期の飢饉	
二	第二節 後期の災害	三九四
一	一 戊の満水	三九四
	千曲川水系の被害状況 白田地域の被害 下越村の被害	
二	二 浅間山の噴火	四〇〇
	浅間大焼け 被災の状況 天明の飢饉	
三	三 化政期・天保期の飢饉	四〇七
	化政期の凶作 天保の飢饉 田野口藩の対応	
三	第三節 騒動の広がり	四一四
一	一 宝曆騒動	四一四

	村の訴願から領内への拡大	小百姓の要求と回答	吟味・仕置と騒動の影響	
二	天明の上信打ちこわし	打ち続く災害	打ちこわしの発生と動き	打ちこわし勢の解体と影響
	田野口領の投訴騒動	投訴の経過	訴人の追及	前嶋発多
三	村方騒動	百姓代の成立	白田村の分け組騒動	村役人の交代
四	世直しを求めて	動揺する政治	幕領の「取締役」	各藩の財政窮乏
	世直し騒動	幕領の「取締役」	各藩の財政窮乏	繰り返される触
	災害と村々の衰微	貯穀政策	民衆の抵抗	世直し騒動
第八章	教育と文化			
第一節	信仰と祭礼			
一	村の神々			
	村の寺社	白田の諏訪社	城山の稲荷社	
二	新海神社と祭礼			
	新海三社神社	新海神社祭礼と神職		
三	伊勢信仰のひろがり	伊勢信仰と御師	伊勢講のひろがり	伊勢参りと抜けまいり
	伊勢信仰と御師	伊勢講のひろがり	伊勢参りと抜けまいり	伊勢参宮記録
四	仏教と民衆			神々の勧請
				三番叟と地芝居・相撲

寺と檀家	黄檗宗寺院と潮音	潮音禪師	観音霊場めぐり	念仏講・庚申講	諸山参詣と先達	四八二	
五	相沢寺面と女人信仰	……	……	……	……	四七〇	
二節	医薬と民衆	……	……	……	……	四七六	
一	医薬の普及	……	……	……	……	四七六	
	さまざまな病気	豪農瀬下家にみる病氣と医療	医療への関心のたかまり	けさの病氣と見舞帳		四八三	
	文久二年ころり大流行	医師の増加				四八三	
二	西洋医学の浸透	……	……	……	……	四八三	
	小林文素と解体人形	解体人形の謎	疱瘡儀礼	種痘の開始		四八三	
第三節	教育文化	……	……	……	……	四八九	
一	文書主義と寺子屋	……	……	……	……	四八九	
	文書による支配	元禄期の手習い師匠	寺子屋師匠と筆塚	手習いの実態	藩学尚友館	藩主の好學	四八九
二	諸学のひろがり	……	……	……	……	四九六	
	心学のひろがり	成章舎の成立	郷土史への関心	『薰猶同器集』にみる白田の文人	禅昌寺の算額		四九六
三	庶民文芸と芸術	……	……	……	……	五〇一	
	玉芝・鶏山と白田の俳諧	相沢月邦と山下白峯	花道の流行			五〇一	
四	村絵師中沢（北村）玉隆	……	……	……	……	五〇六	
	在村の絵師	『生界世祿』について	制作の記録	免状など	中沢玉隆の作品	長野市若穂保科廣徳寺の天井画	五〇六

第一章 所領の変遷と支配の特色

引用・参考文献

白田町誌刊行会委員名簿

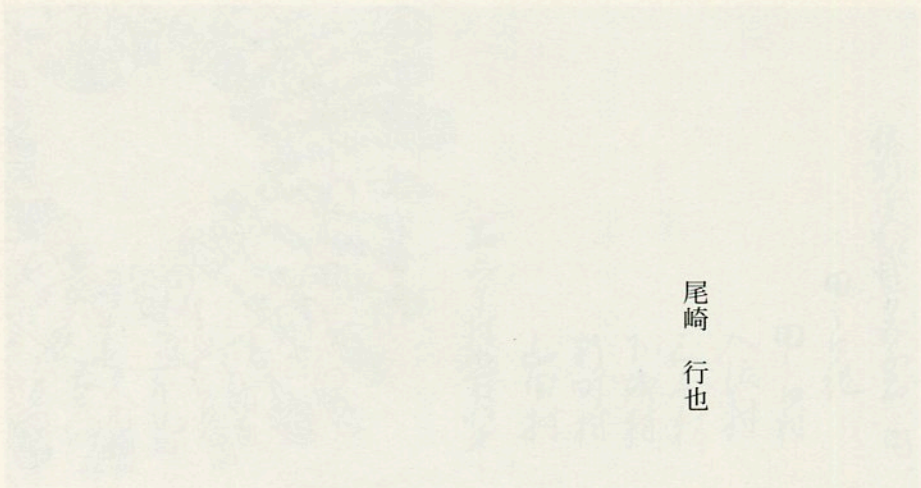
白田町誌近世編纂委員・執筆者名簿

写真、資料等協力者名簿

白田町誌編纂事務局

あとがき

付図 文久二年一月一七日 佐久郡田野口村略絵図



尾崎 行也

田之口郷5ヵ村の申渡判状（寛永14年）